# 向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.14　2016 年 4 月 1 日発行

向岡記碑の見学

3D デジタイザーによる碑の測量

碑の保存状態の確認調査

## 向岡記碑の研究報告会開催

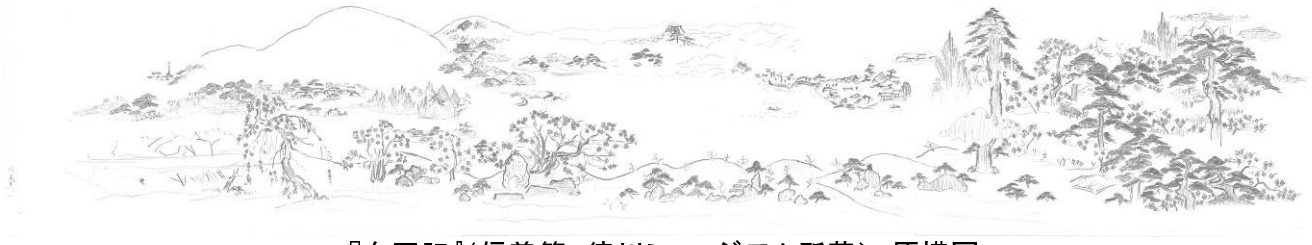
向岡記碑の研究報告会を、向岡記碑周知研究グループ、東京大学埋蔵文化財調査室の主催で、2016 年 3 月 5 日（土)、東京大学農学部フードサイエンス棟１F　中島董一郎記念ホールで開催しました。碑の研究関係者、保存修復研究者の他、向ヶ岡弥生町会、茨城県などから 20 名を超える参加がありました。この報告会は、公益財団法人朝日新聞文化財団　2015 年度文化財保護助成（助成番号 14-035)、「徳川齊昭建立「向岡記碑」の３D デジタル測量による記録保存と碑の周知化への取り組み」原祐一（研究代表者)、堀内秀樹（東京大学埋蔵文化財調査室)、石原道知（武蔵野文化財修復研究所)、田子寿史（アイテック）によって開催しました。

# 3D デジタル測量の経緯と向岡記碑の研究

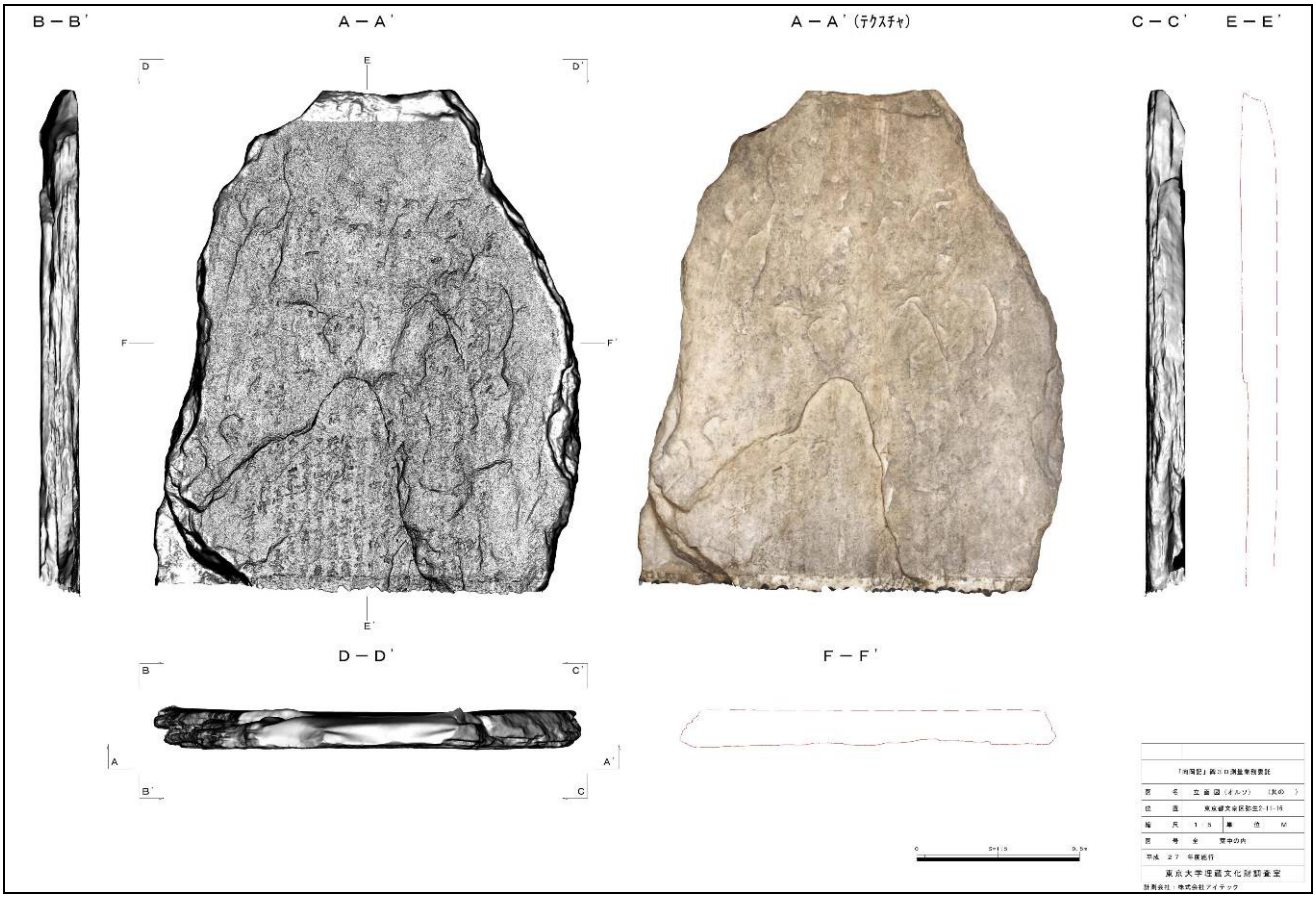
東日本大震災で水戸の弘道館の弘道館碑が崩壊、弘道館碑の拓本、写真による保存修復作業が難航していることを知りました（現在、保存修復作業を終了）。向岡記碑の保存修復を行っていたころ、石造文化財の記録保存には 3D 測量が有効で、万が一破損した場合、実物大で出力すれば修復時の参考資料になり、場合によっては出力したもので欠損部を補うことも可能で、移動が不可能な石造文化財の博物館展示への活用も期待されるという研究を目にしたことから、同じ寒水石製の向岡記碑の 3D 測量を検討していました。向岡記碑は樹脂による強化は行っているもの、表面が濡れ色になるのを抑えるために樹脂の使用を最小限にとどめました。幸い東日本大震災による被害はありませんでした。しかし、地震の規模によっては崩壊の恐れがありました。2015 年度、公益財団法人朝日新聞文化財団の文化財保護助成により 3D 測量が実現、保存修復部分の状態の確認、表面のクリーニングを行いました。

## 向岡記碑とこれまでの研究

向岡記碑は後の水戸藩 9 代藩主 徳川齊昭が藩主就任前の部屋住み時代に揮毫した石碑で、飛白体の題額「向岡記」と銘文、漢字仮名（万葉仮名）交じり文 637 字からなります。碑文に向ヶ岡の歴史、江戸の開発と景勝地の創出、碑建立の意義などを記し、「文政十萬梨一登勢止移布年能夜余秘十日（文政 11 年（1828 年）やよい（3 月）10 日）」に「名尓進於不　春爾向賀岡難連婆　余尓多具肥奈岐　華乃迦計哉（名にし負ふ　春に向が岡なれば　世に類無き華の影哉）」と和歌を詠んでいます。明治 5 年（1872 年）東京府は、碑文の「夜余秘（やよい）（弥生）と「向ヶ岡」を合わせ、駒込邸跡地を向ヶ岡弥生町（現文京区弥生 2 丁目）と命名します。明治 17 年（1884 年）に町内で発見された土器は、碑由来の町名から弥生式土器と名付けられ、後に時代名になります。しかし、碑の存在は、考古学関係者以外にはほとんど知られておらず、職員の中でも存在はほとんど知られていませんでした。碑の周りはごみ置き場となっており、隣接する液体窒素タンクから排気される窒素ガスを液体窒素補充の度に浴び、ごみの積み上げによる破損、碑の裏側にはツタが張り付き、液体窒素タンクの工事のペンキを浴びた状態が確認されました。考古学史と水戸徳川家研究のための重要な石造文化財という評価から、2005 年から碑の調査を開始しました。碑がどこにあるかが最初の調査で 2 回目の調査で碑を発見しました。2007 年、東京大学広報センター細谷恵子さんから連絡があり、碑の拓本について塩原都さんより相談を受けたことから塩原さん、横山淳一さん、垂水李さん、原（「向岡記」碑研究グループ）で調査を開始、碑文を手拓（横山さん）し軸に装丁（垂水さん）、碑文の解読、歴史的背景を検討しました。研究過程で碑文はすべて残っているものの表面が風化、内部に空洞ができており、早急に保存修復を行わなければならないことが判明、石原道知さん、堀江武史さん（府中工房）から保存修復の助言を受け、学会発表を積極的に行い碑の見学会を開催。碑の重要性を学会、一般に訴えます。2008 年『「向岡記」碑　保存修復報告書「向岡記」碑の研究』を刊行。同年、東京大学 130 周年記念事業「知のプロムナード」に伴う整備事業で保存修復と展示が実現します。保存修復は石原さん、堀江さんが担当。石碑を固定していたコンクリートの除去を担当した小林善行さん（小林石材工業）が碑の固定方法についてコンクリートによる固定から台座に持たせかける方法が提案されます。この設置方法により東日本大震災で碑が倒れる被害はありませんでした。設置後、飯村博さんが研究グループに参加、これまでの碑文の現代語訳、万葉仮名の読みを再検討、臨書を作成しました。2011 年、東京大学総合研究博物館で企画展示「弥生誌　向岡記碑をめぐって」を開催、研究成果が展示されました。2013 年度、町田聡さん(文京区教育委員会)による文献調査が行われます。この調査で水戸藩 8 代藩主 齊昭の兄徳川齊脩が支藩の守山藩上屋敷（現、筑波大学東京キャンパス東京校舎）に建立された徳川齊脩漢詩碑と向岡記碑の石材が国元の真弓山から江戸へ持ち込まれ、部屋住み時代の齊昭が碑文を揮毫、建立にかかわったことが明らかになりました。2014 年 3 月 1 日、文京区文化財審議委員会で審議が行われ、文京区の文化財に指定されました。



『向岡記』（信義筆　徳川ミュージアム所蔵）原模写
東京大学浅野地区理学部 3 号館辺りからの景観　庭園の向岡記碑、不忍池、忍ヶ岡が描かれる




オルソ画像（グレーサーフェイス（左）・テクスチャー（右））

## 水戸藩と遺跡調査と保存、明治時代以降に行われた遺跡調査と保存修復

| 年 | 駒込邸と向ヶ岡弥生町の文化財 |
|---|---|
| 元和 8 年（1622 年） | 8 月 4 日、駒込に別荘（下屋敷）後の中屋敷を賜る。 |
| 元禄 5 年（1692 年） | 徳川光圀、那須上車塚・下車塚（現、上侍塚・下侍塚）の遺跡調査。調査後、保存修復 |
| 年代不明 | 駒込邸の造成時、「片岡八郎の墳」の傍らを掘削したところ、石棺を発見。骨、刀、鉄の筒を発見。藩主の指示で墓が「片岡八郎の墳」であるかを調査。調査終了後、破壊部分を修復（『丸山由緒記』）。 |
| 文政 11 年（1828 年） | 部屋住みの徳川齊昭揮毫、3 月 10 日銘「向岡記碑」。 |
| 年代不明 | 徳川齊昭の指示で「大内山」を発掘調査。人骨を発見、改葬（『水府係編』の記述とあるが確認できず）。 |
| 明治 5 年(1872 年) | 駒込邸跡地の範囲を向岡記碑から向ケ岡弥生町と命名 |
| 明治 16 年(1883 年) | 6 月、有坂鉛蔵貝塚発見。8 月、白井光太郎貝塚発見。 |
| 明治 17 年（1884 年） | 後に弥生時代、弥生土器の名称由来となる土器、向ヶ岡弥生町内で発見される。 |
| 明治 20 年(1887 年) | 浅野家向ヶ岡弥生町に移転。向岡記碑は浅野家の所有。 |
| 明治 44 年(1911 年) | 『史蹟名勝天然紀念物保存協会第壱回報告書』「第十五　東京市本郷區彌生町侯爵浅野長勲邸内向ヶ岡碑」で向岡記碑の写真、拓本が紹介される。 |
| 大正 8 年(1919 年) | 黒木安雄編『書苑』（十巻第四號　法書會発行）で向岡記碑の拓本が紹介される。 |
| 昭和 16 年(1941 年) | 浅野家 12 月 8 日まで居住。 |
| 昭和 23 年(1948 年) | 土地解放後に浅野家の敷地が、東京大学敷地となる。向岡記碑は東京大学の所有に。以降、研究棟建設に伴う浅野地区の開発が進み碑移転。 |
| 昭和 39 年(1964 年) | 12 月、行政側の町名整理により、向ヶ岡弥生の一部が根津一丁目に編入。住民の地名保存運動によって、昭和 42 年(1967 年)1 月、弥生二丁目として町名が復活。 |
| 昭和 50 年(1975 年) | 東京大学文学部、同人類学教室による弥生二丁目遺跡の調査。 |
| 昭和 51 年(1976 年) | 佐藤達夫の弥生土器発見推定地、弥生二丁目遺跡の名称で、国史跡に指定。 |
| 昭和 61 年(1986 年) | 向ヶ岡弥生町会有志「弥生式土器発掘ゆかりの地」建立。 |
| 平成 7 年（1995 年） | 工学部支障ケーブル地点の調査。方形周溝墓の周溝を現地保存。 |
| 平成 13 年(2001 年) | 東京大学埋蔵文化財調査による工学部武田先端知ビル地点の調査。方形周溝墓の保存、弥生土器の修復開始。 |
| 平成 17 年(2005 年) | 向岡記碑の調査・研究開始。 |
| 平成 18 年（2006 年） | 文京ふるさと歴史館特別展「徳川御三家江戸屋敷 発掘物語 水戸黄門邸を探る」。 |
| 平成 19 年（2007 年） | 「向岡記」碑研究グループによる向岡記碑の共同研究開始。東京大学 130 周年記念事業「知のプロムナード」に伴う学内整備事業で向岡記碑の保存修復開始。 |
| 平成 20 年（2008 年） | 原祐一他『「向岡記」碑　保存修復報告書　「向岡記」碑の研究』。碑の保存修復と設置終了。茨城県立歴史館特別展「幕末日本と徳川齊昭」碑文の拓本展示。向岡記碑の保存修復終了、展示。 |
| 平成 23 年（2011 年） | 3 月 11 日、東日本大震災。東京大学総合研究博物館春季企画特別展示「弥生誌　向岡記碑をめぐって」。松戸市戸定歴史館企画展「徳川昭武の屋敷慶喜の住まい」で「烈公向ヶ岡碑文写」（徳川慶喜家所蔵）展示。 |
| 平成 25 年（2013 年） | 文京区教育委員会による向岡記碑の調査。 |
| 平成 26 年（2014 年） | 3 月 1 日、文京区指定文化財指定告示。 |
| 平成 27 年(2015 年) | 公益財団法人朝日新聞文化財団 2015 年度文化財保護助成（助成番号 14-035）開始。 |
| 平成 28 年(2016 年) | 3 月 5 日、向岡記碑の研究報告会。報告書刊行。 |

## 水戸徳川家と浅野家　文化財との関わり

明治時代、駒込邸跡地の一角は警視局射的場の敷地になりますが、向岡記碑はなくなることなく、後にこの地に邸宅を構えた浅野家に引き継がれます。徳川慶喜は浅野家当主の浅野長勲に碑文を記した「烈公向ヶ岡碑文写」の作成を依頼、この史料は現在、徳川慶喜家に伝わっています。父齊昭の死に立ち会えなかった慶喜の思いと、水戸徳川家、浅野家によって碑が大切にされたことをうかがうことができます。現在の水戸徳川家当主徳川斉正さんの奥様　徳川槇さん（徳川ミュージアム館長）から、浅野家から水戸徳川家へ嫁いだ前当主 徳川圀斉さんの奥様 徳川頼子さんが子供のころ向岡記碑のあった庭園で遊んだというお話をうかがいました。徳川光圀の指示で行われた那須 上車塚・下車塚の調査は日本初の学術調査と評価されています。駒込邸でも遺跡調査が2回行われ、光圀の調査との関わりが指摘されています。弥生時代の名称由来となった土器の発見地と推定された弥生二丁目遺跡は、調査関係者の尽力で国指定史跡に指定されました。その後浅野地区で検出した2基の方形周溝墓は保存され、出土土器は修復されました。

水戸徳川家の遺跡調査と保存に対する取り組みと徳川慶喜、浅野家の向岡記碑に対する思いは、この地の文化財に関わった人々によって現代に継承されました。

碑の手拓

碑の保存修復

碑の設置

題額「向岡記」（飛白体）の再現

### 編集後記

前号で告知した研究報告会とこれまでの向岡記碑の研究成果をまとめました。3D 測量は保存のために行いましたが、碑の映像による実物大展示、3D プリンターによる展示資料の製作が可能になりました。復元した碑文を重ね合わせるなど様々な展開が期待できます。碑文は徳川齊昭の政治的な声明ということも解ってきました研究はまだ続きます。


**向ヶ岡弥生町**

News Letter

VOL.14　2016 年 4 月 1 日発行

発行　原　祐一


連絡先　〒153-8904
東京都目黒区駒場 4-6-1　東京大学埋蔵文化財調査室
携帯　080-5504-9782　メール　y-hara@dolphin.ocn.ne.jp


印刷　株式会社　芳文社
〒194-0037
東京都町田市木曽西 2-3-14
電話　042-792-3100